

住みたい、住み続けたいまち。岡垣

平成 28 年 3 月、町は 5 年間のまちづくりの方向を示す「岡垣町第 5 次総合計画後期基本計画」と「岡垣町まちひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。今回は、総合戦略を策定するために町の人口の現状と将来の見通しを分析した「岡垣町人口ビジョン」の内容や住民アンケートの結果などを紹介。町は今後、どのようなまちづくりを進めていくかを説明します。

問い合わせ 企画政策室へ

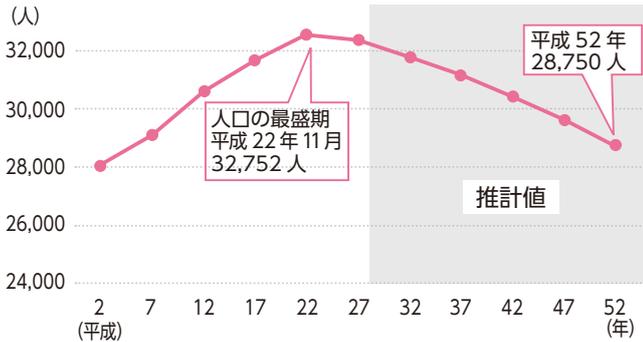
第 1 章

「岡垣町人口ビジョン」に見る町の将来

1 傾向 転入者の減少が 総人口に大きく影響

住

民基本台帳の町の人口は、平成 22 年 11 月の 3 万 2 千 752 人を境に徐々に減り始め、平成 28 年 3 月 31 日現在で 3 万 2 千 275 人となっています。また、国の機関である社会保障・人口問題研究所が発表した推計では、今後も減少傾向が続き、平成 52 年に



■ 岡垣町の人口推計

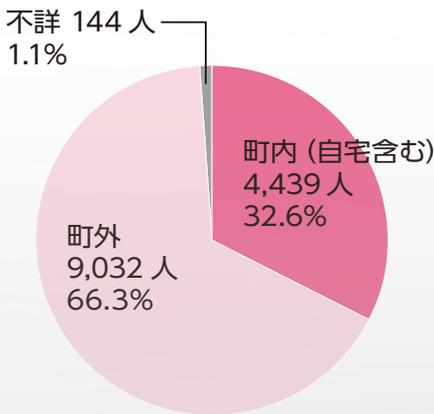
参考：住民基本台帳、国立社会保障・人口問題研究所推計

2 万 8 千 750 人まで減少すると予測されています。人口減少の主な原因は、町外からの転入者が減っていることにあります。岡垣町には、これまで住宅団地などの開発で、福岡市や北九州市で働く 30～40 歳代のファミリー層が転入してきました。この影響を受け、転入者と転出者の差で増えていく人口が、死亡数と出生数の差で減っていく人口を上回っていたため、総人口は増加してききました。しかし、近年では、転入者の受け皿となる住宅の供給が減り、町外からの転入者が減少。この結果、死亡数と出生数の差で減っている人口を補えなくなり、総人口が減少する結果となっています。

2 万 8 千 750 人まで減少すると予測されています。人口減少の主な原因は、町外からの転入者が減っていることにあります。岡垣町には、これまで住宅団地などの開発で、福岡市や北九州市で働く 30～40 歳代のファミリー層が転入してきました。この影響を受け、転入者と転出者の差で増えていく人口が、死亡数と出生数の差で減っていく人口を上回っていたため、総人口は増加してききました。しかし、近年では、転入者の受け皿となる住宅の供給が減り、町外からの転入者が減少。この結果、死亡数と出生数の差で減っている人口を補えなくなり、総人口が減少する結果となっています。

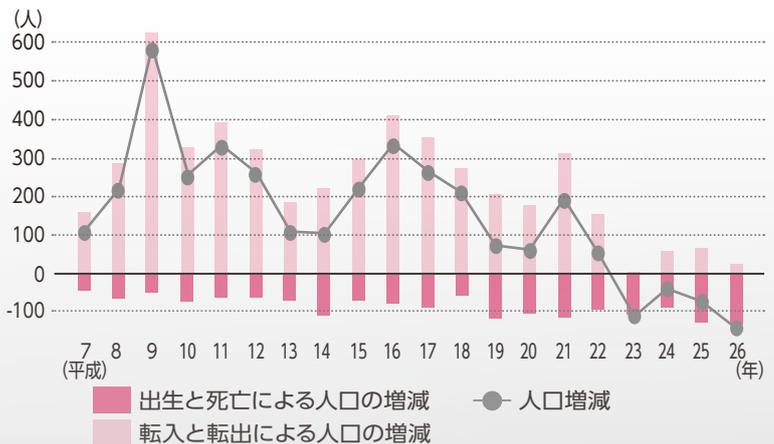
■ 町内に住む就業者の勤務先

参考：平成 22 年国勢調査



■ 岡垣町の人口変動の推移

参考：住民基本台帳



人口減少と少子高齢化に 対応する取り組みが必要

2 傾向 進む高齢化 進む核家族化

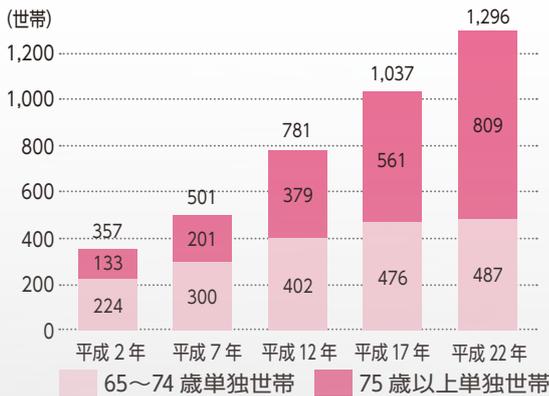
年 齢区分別人口を
見てみると、65
歳以上の老年人口は、年々増えていることが分かります。社会保障・人口問題研究所が発表した推計によると、平成52年には、総人口の34・4パーセントに達すると予測されています。

一方、15〜64歳の生産年齢人口は、平成17年を境に減っていて、0〜14歳の年少人口も少しずつ減っています。この状況は将来の人口推計でも同じ傾向が続くと予測されています。

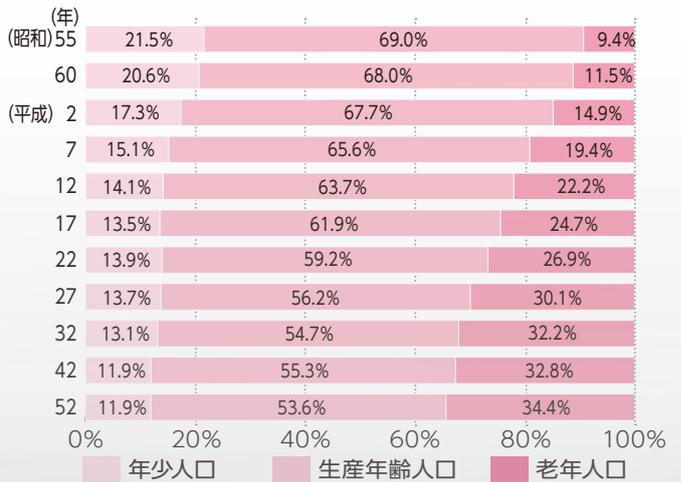
世帯数はこれまで、人口の増加にあわせて増えてきました。しかし、世帯当たりの人員数は年々減少。核家族化が進んでいます。

また、平成22年の国勢調査によると、一人暮らしの高齢者世帯は千96世帯。20年前と比べて約3・6倍と急速に増えています。今後の高齢化で、この傾向がさらに高まることが予測されます。

■ 高齢者単独世帯の推移
参考：国勢調査

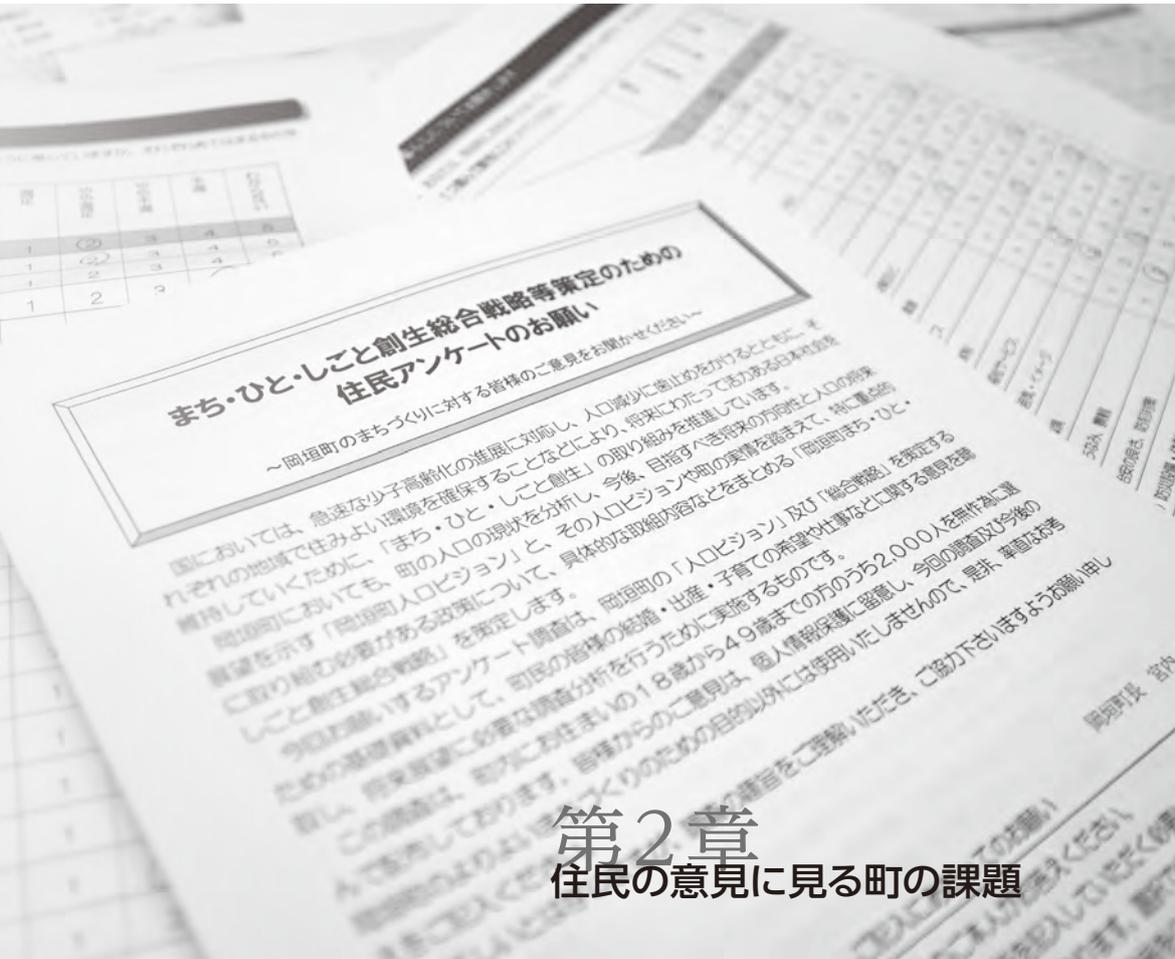


■ 岡垣町の年齢区分別人口割合の推移
参考：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計

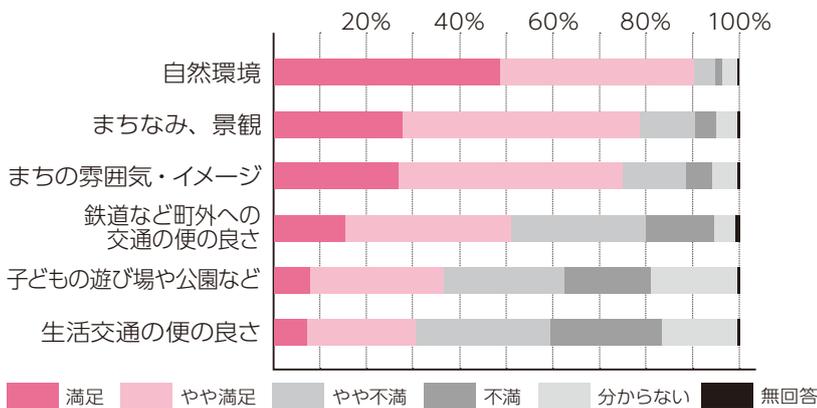


平成27年6～7月に行った「まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定のための住民アンケート」では、780人の町民の皆さんから貴重な意見をいただきました。また、平成28年2月に「岡垣町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案を公表し、意見を募集したところ、4人の方から16の意見をいただきました。皆さんのご協力、ありがとうございます。

ここでは、その結果や意見の一部を紹介。今後のまちづくりを進めていく中で何が求められているのかを考えます。

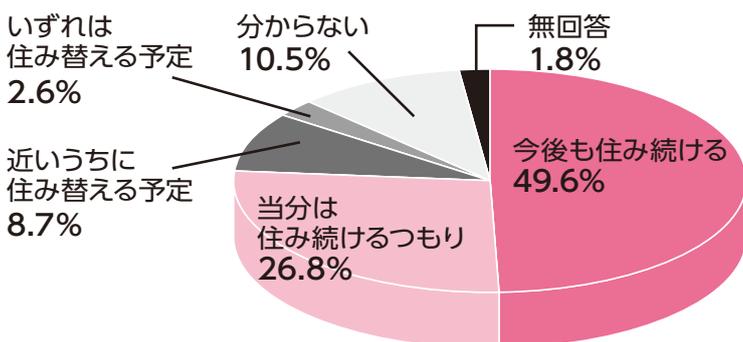


第2章 住民の意見に見る町の課題



A 自然環境やまちなみなどには満足し、交通の便や子ども遊び場に不満を感じています。

Q 岡垣町に住んでどのように感じていますか？



A 7割を超える人が「住み続ける」と答えています。

Q 今後も岡垣町に住み続けたいと思いますか？

岡 垣町で暮らす人は、自然環境やまちなみに満足している一方で、生活交通の便や子どもの遊び場や公園などに不満を抱えていることが分かりました。また、今後も住み続けたいかという質問で、住み替える予定と回答した人は、若年層の単身者に多い傾向となっています。結婚に関するアンケートでは、未婚者のうち80パーセン

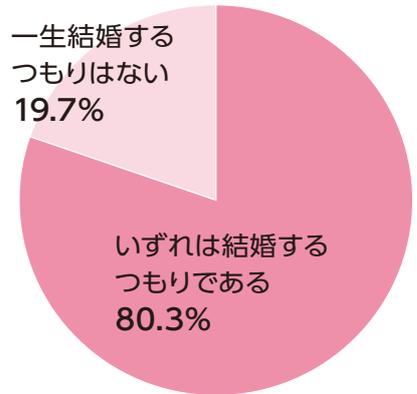
トを超える人が結婚したいと考えています。しかし「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」という意見が多く、未婚者が独身でいる理由としては「適当な相手にめぐりあわない」が最も多くなっています。出産に関するアンケートからは、理想と現実と差を感じている人が多いことが分かります。子どもを持たない、または理想の子どもの人数に足

らない理由は「子育てや教育にお金がかかり過ぎるから」が多くなっています。町が活力あるまちづくりを進めていくためには、便利な公共交通の整備や子育てしやすい環境・制度を充実させる必要があります。そして、町から離れた若者が将来戻って来たいと思うような魅力を発信し続けることが求められています。

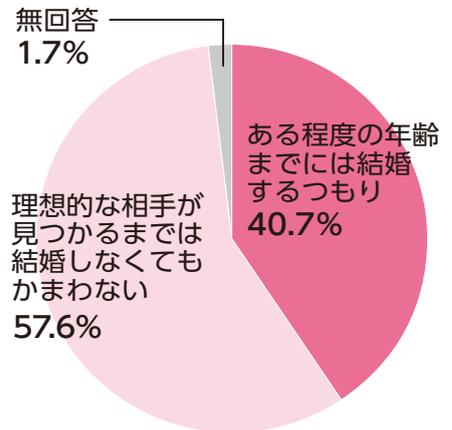
公共交通や子育て環境を充実させ「住み続けたい」「帰って来たい」と思えるまちづくりが求められている

結婚していない人に聞きました

Q あなたの結婚に対する考えは？

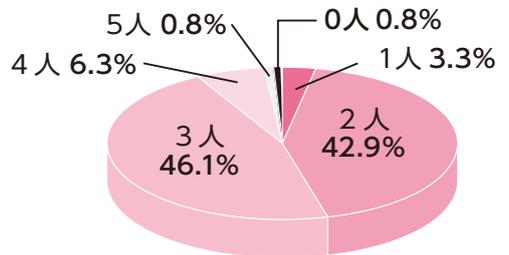


Q 結婚時期はいつごろ？

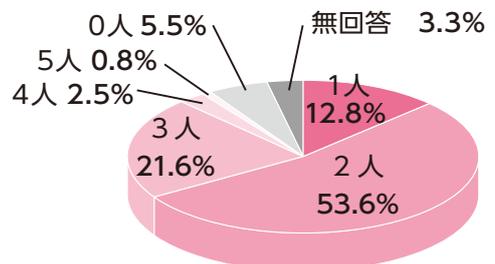


結婚している人に聞きました

Q 理想的な子どもの人数はどのくらい？



Q 子どもの予定人数はどのくらい？



パブリックコメント (戦略の素案に寄せられた意見)

岡垣町は住むにも子育てにも良い環境であり、北九州市と福岡市の中間に位置する通勤圏でもあるため、ほかの市町村の待機児童を解消できる保育所を開設すれば、若い人が集まります。

「空き家問題」は、これからさらに課題が増えていくと思われる。家や土地は個人資産であることから、取り扱いが難しいと思いますが、まちづくりという大きな問題として行政が積極的に関われば、新しいまちが生まれるチャンスになると考えます。

北九州学研都市の発展も予想され、今後国道495号は人の流れが増えることが考えられます。国道495号と国道3号の接近地域を活用するため、大型商業施設前の道路を拡張し、学研都市から福岡方面への経路地にすることで大型商業施設の誘致も可能になると考えます。

このほか皆さんからいただいた意見と町の考え方は、町公式ホームページに掲載しています。

第3章

岡垣町まち・ひと・しごと創生総合戦略に見る
まちづくりの将来方向

「住みたいまち」岡垣の推進



北九州市と福岡市の中間に位置する利便性を持ちながら、海や山などの豊かな自然環境に恵まれた「ちようどいい暮らしができるまち」として、二つの都市で生活する人たちから定住の地として選んでもらえるようなまちづくりをめざします。

「住み続けたいまち」岡垣の推進



岡垣町で育った若者たちが、このまちで生活を続けたいと思えるまちづくりをめざします。
また、進学や就職などの事情で岡垣町を離れる若者たちが、将来帰ってきたいと思えるまちづくりをめざします。

基本的視点

1 将来方向 北九州市・福岡市の定住圏としての転入人口の増加

北九州市・福岡市の中間に位置する立地条件を生かした定住圏として、転入人口の増加に向けた取り組みを進める必要があります。

- 住み良いまちの魅力を高め、効果的に発信する
- 定住の受け皿となる住まいを確保する
- 地元出身者とのつながりを深め、定住を促す



最後に、ここまで紹介してきた岡垣町人口ビジョンによる現状の分析結果と住民アンケートなどの皆さんの意見に加え、第5次総合計画に掲げる町の将来像を踏まえて策定した総合戦略の基本的視点とめざすべき将来方向を紹介いたします。

2 将来方向

流動性の高い20〜40歳代
ファミリー層の人口維持・定着



- これまでの人口増加に大きな影響を与えた30〜40歳代のファミリー層の転入を保ち、転出の多い20歳前後の若者に住み続けてもらうため、20〜40歳代が、結婚・出産・子育てに希望を感じるまちづくりをめざします。
- 結婚・子育てに希望を感じるシーンをつくる
 - 子どもを産み・育てやすい環境をつくる

3 将来方向 地場産業の育成と 新たな住民の起業機会の創出

地域の魅力である豊かな食をつくる第1次産業や暮らしを支える商業など、地場産業の発展を支援します。また、地域の生活課題を解決する方法として、高齢者や女性などの人材を生かしたコミュニティビジネスの起業などで、さまざまな働き方ができる機会の創出をめざします。



4 将来方向 いつまでも愛着を持って 住み続けたいまちづくり

町の強みである豊かな自然に恵まれた住み良さや住民のまちへの愛着度の高さを子どもたちにも引き継ぎ、生涯にわたって安心・安全で便利なまちを持続させるまちづくりをめざします。



- 子どものころからまちへの愛着を高める
- 町の暮らしの利便性を維持する
- 安心した暮らしを支える人材・ネットワークをつくる

すべての町民が将来に夢と希望を持てる 元気なまちづくりをめざして

「岡垣町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けて、住民アンケートや関係団体との懇談会、パブリックコメントなどを行ったほか、幅広い年齢層の住民の皆さんをはじめ、産業界、教育機関、金融機関、マスコミ関係者などにより構成する「岡垣町まち・ひと・しごと創生懇話会」を設け、活発な議論をいた

きました。皆さんのご協力に感謝します。

町は「第5次総合計画」で「住みたい・住み続けたい・みんなが輝く元気なまち 岡垣」という基本理念を掲げています。この理念に基づき、後期基本計画・総合戦略に掲げる取り組みを着実に実行していくことが重要です。

岡垣町には、豊かな自然と

その自然が生み出すおいしい水や四季折々の産物などがあり、地域に誇りと愛着を持ち続けている地域の皆さんの力があります。これらの岡垣町にしかない良さを生かし、守っていくことで、高齢者は元気に、子どもや若者は将来に夢と希望の持てるまちづくりを進めていきます。



岡垣町長 宮内實生

「岡垣町第5次総合計画後期基本計画」の概要版を折り込んでいます

概要版では、第5次総合計画に掲げる「輝き」「安全安心」「心の豊かさ」という3つの将来像を実現するために町が進める24のまちづくりや計画を進めるための8つの基本指針をまとめています。



めざすべき 将来方向